

第七十九回帝國議會
衆議院

日本銀行法案外二件委員會會議錄(速記)第二回

付託議案
日本銀行法案(政府提出)(第一七號)
臨時金融庫法案(政府提出)(第一八號)
臨時資金調整法中改正法律案(政府提出)(第一九號)

會議

昭和十七年一月二十四日(土曜日)午後一時五十分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 板谷 順助君

理事飯村 五郎君

理事中田 儀直君

理事坂東幸太郎君

理事本田 英作君

理事中田 儀直君

理事坂東幸太郎君

理事本田 英作君

理事飯村 五郎君

理事中田 儀直君

理事坂東幸太郎君

理事本田 英作君

理事飯村 五郎君

理事中田 儀直君

理事坂東幸太郎君

理事本田 英作君

理事飯村 五郎君

理事中田 儀直君

理事坂東幸太郎君

理事本田 英作君

理事飯村 五郎君

理事中田 儀直君

理事坂東幸太郎君

理事本田 英作君

理事飯村 五郎君

理事中田 儀直君

理事坂東幸太郎君

理事本田 英作君

大藏書記官 樺田 光男君
大藏書記官 伊原 隆君
預金部長官 相田 岩夫君
本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

戰時金融庫法案(政府提出)

臨時資金調整法中改正法律案(政府提出)

○板谷委員長 才待タセ致シマシタ、是ヨリ會議ヲ開キマス、先ヅ諸君ニ御相談申上

ガタイコトハ、本委員會ニ付託ヲサレマシ

タル三案ハ何レモ金融關係デアリマスルノ

デ、一括シテ議題ニ供スルニ御異議アリマ

セヌカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○板谷委員長 御異議ナシト認メテ左様決

定致シマス、政府ヨリ原案ノ説明ヲ求メマ

ス——賀屋大藏大臣

○賀屋國務大臣 本委員會ニ付託ト相成リ

マシタ日本銀行法案外二件ニ付キマシテ其

ノ提出ノ理由ヲ説明致シマス

先ヅ日本銀行法案ニ付キマシテ御説明申

上ゲマス

大東亞戰爭ヲ完遂シ高度國防國家體制ヲ

完成シ、進ンデ大東亞共榮圈ヲ確立スルト

共ニ、將來久シキニ互ツテ是ガ維持發展ヲ

期シマス爲ニハ、我が國金融並ニ經濟ヲ愈

愈綜合的ニ且ツ計畫的ニ運營スルノ體制ヲ

確立スルコトガ極メテ緊要デアリマス、是

ガ爲ニハ先ヅ以テ中央發券銀行タル日本銀

行ガ我が國通貨金融制度ノ中核トシマシテ、政府ト一體的關係ニ立チ、國策ノ嚮フ所ニ即シテ通貨ノ調節、金融ノ調整及ビ信用制度ノ保持育成ノ責ニ任ジ、進ンデハ大東亞共榮圈全體ノ金融ノ中心機關タルベキ任務ヲ果シ得ルヤウ其ノ體制ヲ整備スルコトガ刻下ノ緊要事デアルト信ズルデアリマス、而シテ日本銀行ハ近年ニ於ケル内外諸般ノ情勢ノ急激ナル變化ニ即應シマシテ、我が國中央發券銀行トシテ能ク其ノ任務ノ遂行ニ萬全ヲ盡シテ來タノデアリマスガ、何様同行現在ノ制度ハ明治十五年及ビ同十七年ノ制定ニ係ル日本銀行條例及ビ兌換銀行條例ヲ基本法ト致シテ居ルノデアリマス、其ノ後日本銀行納付金法、金準備評價法、兌換銀行券條例ノ臨時特例ニ關スル昭和十六年法律第十四號ノ制定等ニ依リマシテ、若干ノ修正ヲ加ヘテ參リマシタガ、何レモ臨時の且ツ部分的ノ修正ニ止マリマシテ、其ノ基本的建前ニ付テハ變更ヲ加ヘラルコトナク、其ノ儘今日マデ持續セラレテ居ルノデアリマス、其ノ結果今や日本銀行ノ現行制度ハ同行運營ノ實際ニ副ハザルノミナラズ、今後同行ガ其ノ使命ヲ全ウスル爲ニハ少ナカラズ障礙トナルニ至ツテ居ルノデアリマス、仍テ政府ハ玆ニ日本銀行制度ノ全般ニ互ル根本的改正ヲ行ヒ、以テ日本銀行ヲシテ新ナル事態ニ即應シ、其ノ使命ヲ完遂ヲ圖ラシムルコトヲ致シタ次第デアリマス

次ニ本法案ノ主ナル點ニ付キマシテ御説明致シマス
先ヅ第一ハ日本銀行ノ組織ヲ根本的ニ改メマシテ、之ヲ強度ノ公的性質ヲ有スル特殊ノ法人組織トナス點デアリマス、現在ノ日本銀行ハ一種ノ株式會社組織デアリマス爲ニ、同行ノ公的性質ガ愈々濃厚ナルニ伴ヒ、今後其ノ使命ヲ遂行セシムル爲ニハ諸般ノ點ニ於テ少カラズ障礙トナリマスノデ、之ヲ根本的ニ改メテ、同行ヲ純然タル公的組織トスルコトヲ致シタノデアリマス

第二ハ日本銀行ノ資本金ヲ一億圓ニ増加スル點デアリマス、現在日本銀行ノ資本金ハ六千萬圓デアリマシテ、内四千五百万圓拂込済ノモノデアリマスガ、之ヲ一億圓ニ増加致シマスト共ニ、同行ノ國家的使命ニ顧ミマシテ、現在ノ拂込資本金四千五百万圓ノ外、五千五百万圓ヲ政府ニ於テ出資シ、是ガ實際ノ拂込ハ今後必要ニ應ジテナスコトヲ致シタノデアリマス

第三ハ日本銀行ノ實際運營ニ當ルベキ職員ノ制度ヲ一般ト公的ノモノトスル點デアリマス、日本銀行ノ運營ハ國家目的ノ達成ヲ目的トシテ行ハルベキモノデアリマスカラ、同行役員ハ總テ政府ニ於テ任命シ、一定ノ事由アル場合ハ之ヲ解任シ得ルコトトスル等、役員ノ責任、任免等ニ關スル規定ヲ之ニ適應スル如ク改正シマスルト共ニ、同行ノ職員ハ總テ公務員ト看做スコトヲ致シ

出席國務大臣左ノ如シ
大藏大臣 賀屋 興宜君
出席政府委員左ノ如シ
大藏省銀行局長 山際 正道君
大藏省會社部長 田中 豐君

タノデアリマス

第四ハ日本銀行ヲシテ時勢ノ進展ニ即應シ、通貨金融ノ中核機關タル使命ヲ全ウセシムル爲ニ、其ノ行フベキ業務ヲ擴充スル點デアリマス、其ノ主要ナル點ヲ擧ゲマスレバ

其ノ一ハ、現在日本銀行ハ制度上從來金融ノ調整ヲ中心トシ、産業金融ニハ關與セザル建前トナツテ居ルデアリマスガ、今後ハ生産力擴充ノ緊要性等ニ對應シ、同行ハ株式、社債等ヲ擔保トスル貸出ヲナシ得ルガ如ク明文ヲ設ケル等ニ依リ、産業金融ニ付テモ進シデ是ガ調整ヲ圖ルコト致シタコトデアリマス

其ノ二ハ、日本銀行ヲシテ金融調整ノ機能ヲ十分ニ發揮セシムルガ爲ニ、同行ハ手形、國債及ビ一定ノ債券ノ賣買ヲナス等ノ方法ニ依ツテ市場操作ヲ行ヒ、積極的ニ金融市場ノ調整ニ當ルコト致シタコトデアリマス其ノ三ハ日本銀行ハ日本銀行トシテ我が國全般ノ通貨金融ノ調節ニ當ルト共ニ、進シデハ今後ハ廣ク大東亞共榮圈內ノ金融ノ中心機關タルノ職責ヲ負フモノデアリマスルカラ、同行ハ國際金融取引上必要アル時ハ外國爲替ノ賣買ヲナシ、外國金融機關ニ對シ出資、資金ノ融通ヲナシ、又ハ是等ノモノト爲替決済ニ關スル取引ヲ行ヒ得ルコト致シタコトデアリマス

次ハ日本銀行ハ中央銀行トシテ我が國信用制度ノ保持、育成ヲ圖ルベキ任務ヲ有スルモノデアリマスカラ、是ガ爲ニ或ル時ハ進シデ資金ノ融通、債務ノ保證等ヲ行フコト致シタコトデアリマス

第五ハ日本銀行ノ銀行券發行ニ關シ恒久的ナル新制度ヲ設ケル點デアリマス、兌換

銀行券條例ニ基ク發券制度ハ、金本位制度ヲ基礎トスルモノデアリマシテ、今日右ノ制度ハ全ク其ノ意義ヲ喪失スルニ至ツタノミナラズ、却テ通貨政策遂行上ノ障礙トナツテ居リマス爲メ、昨年法律第十四號ヲ以テ之ニ代ル制度ヲ設ケタノデアリマスガ、同法ハ臨時的ナ特例ニ止マルモノデアリマスカラ、之ニ代ル管理通貨制度ヲ基礎トスル恒久的ナル新發券制度ヲ設ケルコト致シタノデアリマス

第六ハ日本銀行ヲ公的組織トスルニ伴ヒ、同行ノ經理ニ關スル制度ヲ根本的ニ改正スル點デアリマス、日本銀行ハ專ラ國家目的ノ達成ヲ使命トシテ運營セラルベキモノデアリマスカラ、同行ニハ出資者總會ヲ置カザルコトトスルト共ニ、政府以外ノ出資者ニ對シ年四分ノ配當ヲ保證スルコトトシ、他面剩餘金ヨリ出資者ニ對スル年五分ヲ超エザル配當及ビ所定ノ積立金ヲ引去リタル殘餘ハ、之ヲ舉ゲテ國庫ニ納付セシムルコト致シタノデアリマス

第七ハ日本銀行ヲ公的機關ニ改編スルニ伴ヒ、國家ト同行トノ一體的關係ヲ強化シ、其ノ連繫ヲ緊密ナラシムルガ爲メ、同行ニ對スル政府ノ監督制度ニ付キ所要ノ改正ヲ行フ點デアリマス

第八ハ日本銀行ノ改組ニ關聯シ、現在ノ日本銀行ト新日本銀行トノ關係ヲ調整スル爲メ、所要ノ規定ヲ設ケル點デアリマス、日本銀行ノ改組ニ當リ、現在ノ日本銀行ノ權利義務其ノ他一切ノ法律關係ハ、其ノ儘新日本銀行ニ於テ之ヲ承繼セシムルコトト致シタノデアリマス、又改組ノ際ニ於ケル同行ノ株主ハ、其ノ儘新日本銀行ノ出資者トナルコト致シタノデアリマスガ、右出

資者ニ對シテハ改組ニ因リ損害ヲ被ルコトナカラシムルガ爲ニ、日本銀行ヲシテ昭和十五年及ビ同十六年中ノ日本銀行ノ株式ノ時價及ビ新日本銀行成立ノ日ニ於ケル出資者ノ持分ノ價格ヲ參酌致シマシテ、大藏大臣ノ定メタル適正ナル基準ニ依リ補償金ヲ交付セシムルコト致シタノデアリマス

最後ニ現行ノ日本銀行關係諸法規ヲ整理統合シテ、其ノ體裁及ビ内容ニ整備ヲ加ヘル點デアリマス、現行ノ日本銀行制度ハ日本銀行條例、兌換銀行券條例、日本銀行納付金法、金準備評價法及ビ昭和十六年法律第十四號ヨリ成リ、而モ是等法律ノ規定ノ體裁ハ新舊多樣デアリマシテ、其ノ調和ヲ缺キ、是等ノ全體ヲ通ジテ日本銀行制度ノ内容ヲ綜合的ニ且ツ明確ニ理解スル上ニ甚シク不備デアリマスルノデ、是等諸法規ノ統合整理ヲ行フコト致シタノデアリマス

本法案ノ大要ハ以上申述ベマシタ通りデアリマスルガ、之ニ依リ今後日本銀行ハ政府ト一體的關係ニ立チ、我が國中央發券銀行トシテ遺憾ナク其ノ使命ヲ果シ得ル機構ヲ整ヘマシタモノト考ヘルノデアリマス、而シテ今後國家ハ日本銀行ニ對シテ無限ノ援助ヲ與フルコトトナルノデアリマスルカラ、日本銀行ノ信用ノ基礎ハ愈々鞏固トナリ、同行ハ新シキ事態ニ相應ハシキ中央發券銀行トナルモノト確信致ス次第デアリマス

ビ重要物資ノ貯藏等ヲ遂行致シマスル爲ニハ、之ニ必要ナル資金ヲ圓滑ニ供給スルヲ要スルコト言フ俟タザル所デアリマス、斯カル資金ハ從來ハ一般金融機關等ノ活動竝ニ融資命令ノ發動等ニ依リマシテ、兎モ角モ供給セラレテ參ツタノデアリマスルガ、生産ノ擴充、産業再編成及ビ重要物資ノ貯藏等ノ遂行ガ急ヲ要スルニ至リマスルニ伴ヒ、之ニ必要ナル資金ノ需要ハ今後益々増大スルモノト豫想セララルノデアリマス、而シテ是等資金ノ中ニハ事業ノ性質上、収益性ノ將來ノ見透シガ困難ナル等ノ事情ニ依リマシテ、從來ノ金融的觀點ヨリシテ一般金融機關等ヨリノ自發的供給ヲ期待スルコト困難ナルモノモ少クナイノデアリマシテ、斯カル資金ノ供給ヲ圓滑ナラシメル爲ニハ、新タニ積極的ナル施設ヲ講ズルコトガ刻下ノ急務ナリト存ズルノデアリマス、仍テ力強ク此ノ要請ニ應ジ得ル特殊ナ機關トシテ戰時金融庫ヲ設立致シ、以テ戰時經濟ノ運營上必要ナル資金ノ供給ニ遺憾ナカラシメントスルモノデアリマシテ、之ニ依リ他面一般金融機關ノ運營ノ健全性ニ寄與スル所亦大ナルモノガアルト存ズル次第デアリマス

次ニ本法案ノ主ナル點ニ付キ御説明致シマス、先ヅ第一ニ本金融庫ノ組織デアリマスガ、本金融庫ノ資本金ハ三億圓トシ、認可ヲ受ケテ増資シ得ルコト致シマシタ、而シテ政府ハ二億圓以內ニ於テ之ニ出資シ得ルコトトシ、殘リハ之ヲ民間ノ出資ニ俟ツコトトスル考ヘデアリマス

本金融庫ノ役員ハ總裁、副總裁各一人、理事五人以上、監事二人以上及ビ評議員若干人ヲ置キ、政府ガ之ヲ任命致スコト相成

ツテ居リマス、評議員ニハ關係官吏及ビ民間關係者ヲ之ニ任命致シマシテ、業務ニ關スル重要ナル事項ニ付テ總裁ノ諮問ニ應ゼシメルコトト致シ、本金庫運営上各方面トノ連絡ヲ十分ニ保持セシメタイト考ヘテ居リマス、役員ノ任期ハ總裁、副總裁及ビ理事ハ四年、監事及ビ評議員ハ二年ト致シテ居リマス

第二ニ業務ニ付テ述ベマスレバ、本金庫ハ國家緊要産業ヲ營ム者、維持ヲ必要トスル未動遊休設備ヲ保有スル者、國家ノ必要ニ應ジテ重要物資ヲ貯藏シ、又ハ事業ノ整備ヲナス者等ニシテ、從來ノ通常ノ金融方法ヲ以テシテハ其ノ必要ナル資金ノ供給ヲ受ケルコト困難ナル者ニ對スル投資、又ハ融資並ニ市價安定ノ爲ニスル有價證券ノ賣買保有ヲ行フモノデアリマス、尙ホ本金庫ハ其ノ目的達成上必要アル場合ニ於テハ、認可ヲ受ケテ其ノ他ノ業務ヲモ行ヒ得ルコトト相成ツテ居リマス、此ノ機會ニ於テ本

金庫ノ業務ト從來ノ金融機關ノ業務トノ關係ニ付テ一言致シマスルニ、從來ノ金融機關モ今後益々時局ノ要請ニ應ジ必要ナル方面ニハ進ンデ資金ノ供給ヲ圖リ、以テ戰時金融ノ責任ヲ分擔スベキコト當然デアリマスルガ、唯從來ノ金融機關ヲシテ供給セシムルコト困難ナリト認メラルル資金ニ付キマシテハ、本金庫ヲシテ是ガ供給ニ當ラシメン

トスルデアリマス、本金庫ノ業務中、投資ニ關シマシテハ從來之ヲ擔當スベキ適當ナル專門機關ガナク、又未動遊休設備ノ維持及ビ企業ノ整備等ニ要スル資金ノ融通ニ付キマシテモ、從來ノ金融機關ニ於テハ擔當シ得ナイ分野ガアルデアリマス、唯國家緊要産業ニ對スル融資ノ部面ニ關シマシテハ、日

本興業銀行ガ取扱ツテ居リマスル命令融資ノ制度ガ存スルデアリマスルガ、此ノ種ノ金融ノ必要ハ今後益々増加スルモノト考ヘラレマスルシ、且ツ又此ノ種ノ金融ハ現在ノ如ク個々ノ貸付ニ付テ融資命令ヲ發シテ補償ヲ行フコトモ一方法デアリマスルガ、尙ホ包括的ナル國家ノ補償ヲ背景ト致シマシテ、専ラ之ヲ取扱フ機關ヲ設ケルコトガ適當デアルト考ヘテ居リ次第デアリマス、尤モ本金庫設立後ト雖モ融資命令ノ制度ハ之ヲ存続シテ、必要アラバ日本興業銀行等ニ對シマシテ融資命令ヲ發スルコトモアルト考ヘテ居リマス

第三ニ本金庫ノ業務ヲ遂行致シマスル爲ニハ、相當多額ノ資金ヲ必要ト致シマスルノデ、其ノ調達ハ主トシテ債券ノ發行ニ依ルコトト致シ、拂込資本金額ノ十倍ヲ限リ、戰時金融債券ヲ發行シ得ルコトトシ、又政府ハ其ノ債券ノ元本ノ償還及ビ利息ノ支拂ヒヲ保證シ得ルコトト致シテ居ルデアリマス

第四ニ本金庫ニ對スル國家ノ援助ニ付テ申上ゲマスルニ、本金庫ノ業務ノ性質ニ顧ミテ、政府ハ本金庫ガ民間出資ニ對シテ年五分ノ配當ヲナスニ必要ナル補給金ヲ交付スルコトニ致シテ居リマス、即チ本金庫ハ國家の必要ニ應ジテ回收ノ確實性必ズシモ明確ナラザル投資融資ヲ行フモノデアリマスカラ、損失ガ生ジマシタ場合ニモ政府ハ之ヲ填補シテ民間ノ出資ニ對シ配當ヲナシ得ルヤウ必要ナル補給金ヲ交付セントスルモノデアリマス

第五ニ本金庫ニ對スル監督ニ付テハ、本金庫ハ國家の見地ニ立ツテ戰時金融ヲ分擔シ、政府ノ産業政策ノ圓滑ナル遂行ニ協力

スル公的機關デアリマスルノデ、只今申上ゲマシタヤウナ特權ヲ與ヘラレテ居ル點ニモ顧ミマシテ、政府ハ監督官ヲ置キ、其ノ業務ヲ監視セシムル等、嚴重ナル監督ヲナシ、又其ノ職員ハ法律上公務員トシテ取扱フコトニ致シテ居ルデアリマス

尙ホ本金庫ハ政府ノ損失補償ヲ背景トシテ資金ノ供給ヲナスモノデアリマスカラ、何處マデモ必要ナル方面ニハ十分ニ之ヲ供給スルノ要ガアリマスルト共ニ、其ノ反面本金庫ヲ通ズル資金供給ニ依ツテ、國家的ニ見テ資金ノ運用ガ放漫ニ流レルガ如キコトハ、嚴ニ之ヲ避ケナケレバナライノデアリマス、隨テ只今申述ベマシタ通り本金庫ニ對スル監督ヲ嚴重ニ致シマスルト共ニ、本金庫ヨリ資金ノ供給ヲ受ケタル者ニ對シマシテモ又必要ガアリマスレバ政府ハ報告ヲ徴シ、或ハ當該官吏ヲシテ監査ヲ行ハシメ得ルコトト致シテ居ルデアリマス

最後ニ日本協同證券株式會社ノ本金庫ヘノ統合ニ付テ一言致シマスルニ、同社ハ生産力擴充資金供給ノ圓滑ナル疏通ニ資スル爲メ、有價證券ノ市價安定ヲ圖ルコトヲ目的トシテ昨年春設立セラレ、爾來政府ト緊密ナル連絡ヲ保チ、其ノ目的達成ニ努メテ參ツタモノデアリマス、今回前ニ申述ベマシタ通り、市價安定ノ爲ニスル有價證券ノ賣買保有ハ、之ヲ戰時金融庫ニ於テ行フコトト相成リマスルノデ、同社ハ本金庫成立ト共ニ本金庫ニ統合スルコトト致シテ居ルデアリマス、以上戰時金融庫法案ニ付キマシテ御説明ヲ致シ次第デアリマス

次ニ臨時資金調整法中改正法律案ニ付キマシテ御説明ヲ申上ゲマス、改正ノ第一ハ、

戰時金融庫ヲ本法第二條ノ金融機關ノ内ニ加ヘントスルコトデアリマス、本議會ニ於キマシテ別ニ戰時金融庫法案ヲ提出致シタノデアリマスガ、該法案ニ依リ設立セラレマスル戰時金融庫ニ付キマシテ、是ガ資金ノ貸付等ノ調整ヲ圖ル必要ガアリマスル爲ニ、本法ノ金融機關ノ内ニ加ヘルコトニ致シタノデアリマス

次ニ改正ノ第二ハ本法ニ依ル興業債券ノ發行限度ヲ二十億圓ヨリ五十億圓ニ擴張スルト共ニ、興業債券ニ對スル政府ノ元利支拂保證ノ限度ヲ撤廢セントスルコトデアリマス、興業債券ノ發行限度ニ付キマシテハ、昨年通常議會ノ協賛ヲ經テ之ヲ十億圓ヨリ二十億圓ニ擴張致シタノデアリマスガ、其ノ後ニ於ケル生産力擴充資金、其ノ他時局ニ緊要ナル資金ノ需要ハ益々増加致シマスノデ、日本興業銀行ニ於ケル貸出金ハ昨年中ノミ

ニテモ八億二千三百餘萬圓ヲ増加致シテ居リマス、其ノ他同期間中ニ於ケル公社債保有高ノ増加ハ二億四千四百餘萬圓ニ達シテ居リマス、是ガ所要資金調達ノ爲メ、興業債券ノ發行亦昨年中ニ於テ十億一千六百餘萬圓ノ巨額ニ達シタノデアリマシテ、昨年末ニ於ケル同債券發行餘力ハ五億七千餘萬圓ヲ餘スニ過ギナイコトトナツタノデアリマス、而モ今後大東亞戰爭完遂ノ爲ニハ、此ノ種資金ノ需要ハ一層増大スルモノト豫想セラレマスルノデ、茲ニ右發行限度ヲ二十億圓ヨリ五十億圓ニ擴張シ、是ガ所要資金ノ調達ニ支障ナカラシメントスルモノデアリマス、是ト共ニ興業債券ニ對スル政府ノ元利支拂保證ノ限度ハ現在二十億圓ト相成ツテ居ルデアリマスガ、是ガ發行ノ圓滑ヲ期センガ爲ニハ、臨時資金調整法ニ依ル分タル

ト、日本興業銀行法案第十二條又ハ第十二條ノ二ノ規定ニ依ル分タルトヲ問ハズ、總テ政府保證ヲナシ得ルコトトスルヲ適當ト認メラレマスルノデ、茲ニ右二十億圓ノ限度ヲ撤廢セントスルモノデアリマス

改正ノ第三ハ、商工債券ノ發行限度ヲ擴張シ、五千萬圓ヲ限リ商工組合中央金庫法第三十一條ノ制限ヲ超エテ是ガ發行ヲナシ得ルコトトナサントスルコトデアリマス、商工組合中央金庫ノ貸出金ハ近時時局ノ要請ニ伴ヒ、相當急激ナル増加ヲ致シテ居ルノデアリマシテ、昨年中ニ四千三百餘萬圓ヲ増加シ、商工債券ノ發行高亦同期間中ニ於テ借換分ヲ除キ四千九百餘萬圓ニ達シ、昨年末ニ於ケル是ガ發行餘力ハ七百十餘萬圓ヲ存スルニ過ギナイ狀況デアリマス、而モ同金庫ニ對スル資金ノ需要ハ今後モ引續キ相當活潑ナルモノト豫想セラレマスノデ、茲ニ本法ニ依リ發行限度ヲ五千萬圓ダケ擴張シ、是ガ所要資金ノ調達ニ支障ナカラシメントスルモノデアリマス

次ニ改正ノ第四ハ、土地其ノ他ノモノヲ收用セラレ又ハ賣却シタル者等ガ、其ノ代償トシテ受ケル金銭ノ處分ニ付キ必要ナル命令ヲナシ得ルヤウニシタコトデアリマス、土地其ノ他ノモノヲ收用セラレ又ハ賣却シタル者等ガ其ノ代償トシテ受ケル補償金、賣却代金等ハ、概ネ相當多額ノ臨時的收入ト認メラルルノデアリマスガ、是ガ浮動化ヲ防止スルト共ニ國債其ノ他ノ有價證券消化ノ有力ナル源泉ヲシメル爲メ、從來ヨリ此ノ趣旨ニ基ク、國債等ノ購入勸奨運動ヲ實施シ來ツタノデアリマス、而シテ現下時局ノ要請ニ基キ、右勸奨運動ハ一層徹底強化ヲ必要トスルノ情勢ニアルニ顧ミマシ

テ、是ガ效果ノ萬全ヲ期シマスル爲メ、必要アル場合ニハ其ノ最終的手段トシテ是等ノ者ニ對シ國債等ノ有價證券ノ購入保有ヲ命ジ得ルノ途ヲ開クコトヲ必要ト認メタ次第デアリマス

次ニ改正ノ第五ハ、貯蓄債券ノ發行限度ヲ十億圓ヨリ二十億圓ニ、報國債券ノ發行限度ヲ五億圓ヨリ十五億圓ニ擴張スルト共ニ、貯蓄債券ノ券面金額ヲ引上げ、報國債券ノ割増金ノ附與回數ニ關スル制限ヲ撤廢セントスルコトデアリマス、貯蓄債券ハ昭和十二年十二月以降昨年十二月マデニ二十五回ニ互リ、賣出價額六億二千三百萬圓、報國債券ハ昭和十五年五月以降本年一月マデニ十一回ニ互リ、賣出價額三億五千九百萬圓ヲ日本勸業銀行ヲシテ賣出サシメ、更ニ本年二月二十一日ヨリ、貯蓄債券賣出價額五千萬圓、報國債券賣出價額三千萬圓ノ賣出ヲナサシムルコトトナツテ居リマスノデ、本年度末ニ於ケル發行餘力ハ貯蓄債券ハ三億二千七百萬圓、報國債券ハ一億千九百萬圓ヲ殘スニ過ギナイコトニ相成ルノデアリマス、然ルニ大東亞戰爭ノ起リマシタルノニ伴ヒ、政府資金ノ撤布額ハ今後益々多額ニ達スルモノト考ヘラレルノデアリマスガ、此ノ撤布資金ヲ吸收シ、國民貯蓄ノ増強ヲ圖リマスコトハ、惡性「インフレーション」ヲ回避シ、必要ナル戰費及ビ産業擴充資金ヲ作リマスル上ニ於テ絕對ニ必要デアリマス、隨テ是等貯蓄債券及ビ報國債券ノ發行ハ、之ニ取リマシテ有效ナル手段デアリマスルノデ、益々其ノ發行ノ増額スルノ要アリト認メラレマスルカラ、其ノ發行限度ヲ擴張致シマシテ、又併セテ是等債券ノ消化促進ニ資スル爲メ、貯蓄債券ニ付キマシテハ現在

其ノ券面金額ガ二十圓以下トアリマスルノヲ三十圓以下十圓方引上げ得ルコト致シ、又報國債券ニ付キマシテハ其ノ抽籤ハ毎年一回以上之ヲ行フコトトアル制限ヲ撤廢致シタノデアリマス、尙ホ貯蓄債券ノ券面金額ヲ引上ゲルコトト關聯致シマシテ、有價證券移轉稅法中ノ免稅證券ニ關スル規定ヲ改正シテ、小額債券ノ課稅最低限ヲ三十圓以下ニ引上ゲルコトニ致シマシタルノデアリマス

最後ニ改正ノ第六ハ、本法ノ罰則ヲ企業許可令ニ依ル罰則ト權衡ヲ得セシメントスルコトデアリマス、昨年十二月十一日公布セラレマシタル企業許可令ノ違反ニ付キマシテハ、國家總動員法ノ規定ニ依ル罰則ノ適用ヲ受ケマスルガ、本法ハ同令ト或ル範圍ニ於テ同性質ノ事案ヲ對象トシテ居リマスルノデ、本法ノ規定ニ違反シタル場合ノ罰則ニ付キマシテ、是ガ權衡ヲ保タシムル必要ガアリマスルノデ、本法ノ罰則ニ關スル規定ヲ改正スルコトニ致シタルノデアリマス

以上三件ノ法律案ニ付キマシテハ何卒御審議ノ上速カニ御賛成ヲ與ヘラレシコトヲ希望致シマス

○板谷委員長 此ノ際資料ノ要求ガアリマシタラ御申出ヲ願ヒマス

○世耕委員 三案ニ關係ノアル資料ヲ一括シテ御願ヒ致シテ置キマス、第一ハ本法案ニ關係スル南方開發營團及ビ其ノ他營團等ニ關スル參考資料、二ハ産業資金關係デ昭和十一年度以降ノ統計、但シ特殊銀行、一般銀行ト別、三八日本協同證券會社ノ定款及ビ貸借對照表、四ハ東亞經濟圈內ノ各種統計資料、五ハ支那ニ於ケル國策會社ニ關スル各種參考資料、以上ヲ御願ヒ致シマス

○栗山委員 資料ノ要求ハ文書ヲ以テ申出デマシテモ、大藏大臣ガ居ラレル限り、成ベク大藏大臣ニ質問スル機會ヲ多ク與ヘラレルヤウニ計ラハレタイト思ヒマス

○板谷委員長 承知致シマシタ、若シ只今資料ノ要求ガ間ニ合ヒマセヌデシタナラバ、文書デモ宜シウゴザイマスカラ、明後日ノ午前中ニ御申出ヲ願ヒタイト思ヒマス

○武田委員 私モ資料ヲ御願ヒ致シマス、私ハ簡單デ宜イノデスガ、昭和十二年以降昭和十六年度マデ各年度內ニ於ケル租稅其ノ他ノ國庫ニ於ケル收納金額ト、國庫カラノ支拂金額ノ差ヲ表ニシテ提出サレタイト思ヒマス、ソレカラハハ外デモ調べバ分ルコトデゴザイマスケレドモ、一寸參考ニシタイト思フノデアリマスガ、昭和十二年度カラ各年ノ平均ノ兌換券ノ發行額、毎月ノ平均發行額並ニ各月末ノ發行額ヲ御知ラセ願ヒタイト思ヒマス、ソレカラ尙ホ昭和十二年以降各年別ニ制限外發行額ハドノ位ニナツテ居ルカト云フコトヲ御知ラセ願ヒタイ、毎年月別ニシテ制限外發行高ヲ御知ラセ願ヒタイト思ヒマス

○坂東委員 私モ一件、大東亞戰爭開始前ノ佛印、「タイ」、「ビルマ」、英國管轄下ノ「マレー」半島、「フィリピン」、蘭印、濠洲、「ニューギランド」、此ノ各國ニ於ケル貨幣ノ流通高、此ノ一件ヲ御願ヒ致シタイノデアリマス

○板谷委員長 外ニ御希望ハゴザイマセスカ

○田村委員 先程世耕君カラ御要求ガアツタノデ重複シマスガ、事變以來ノ産業金融——一般銀行ト特殊銀行ト別々ニシテ戴ケレバ宜シイノデスガ、趨勢ト申シマスカ、

是ハ世耕君ガ先程御要求ニナツタノト重複
シテ居リマスガ、是非一ツ御願ヒ致シタイ
ト思ヒマス、ソレカラ現在ノ此ノ法案ノ狙
ヒ、戰時金融金庫ノ狙ツテ居ル未動遊休設
備ノ何カ調査ガアリマシタナラバ、御提出
願ヒタイト思ヒマス

○板谷委員長 外ニアリマセヌカ——只今
委員諸君カラ御要求ノ參考資料ハ成ベク早
ク一ツ御提出ヲ願ヒマス

尙ホ此ノ際一言申上ゲテ置キマスガ、議
案ハ何レモ戰時金融トシテ重大ナ關係ガ
アリマスルノデ、本委員會ニ於テモ十分審議
ヲ盡シタイト考ヘテ居リマス、ドウカ質問
ヲ御希望ノ方ハ御通告ヲ願ヒタイ、ソレカ
ラ尙ホ此ノ審議ノ方法ニ付キマシテハ政府側
トモ打合セヲ致シマシテ、理事各位トモ御
相談ノ上、成ベク委員各位ノ御期待ニ副フ
ヤウニ計ラヒタイト考ヘテ居リマス、其ノ
際改メテ又各位ニ御相談ヲ申上ゲマス、左
様御承知置キヲ願ツテ置キマス、本日ハ是
ニテ散會致シマシテ、次會ハ明後日ノ午前
十時ヨリ開會致シマス

午後二時四十分散會

昭和十七年一月二十四日印刷

昭和十七年一月二十五日發行

衆議院事務局

印刷者 内閣印刷局